

# 共生社会システム研究 執筆要領

2017年2月改訂

## 1. 原稿の種類と分量制限

### 1) 論文 400字詰め原稿用紙換算 40枚以内

英文またはその他の外国語原稿の場合、A4用紙（1行10～15単語、28行）25枚以内

### 2) 資料 400字詰め原稿用紙換算 20枚以内

### 3) 短報 400字詰め原稿用紙換算 20枚以内

### 4) 研究ノート 400字詰め原稿用紙換算 20枚以内

### 5) 研究動向 400字詰め原稿用紙換算 30枚以内

### 6) 総説 400字詰め原稿用紙換算 30枚以内

### 7) 書評 400字詰め原稿用紙換算 10枚以内

ただし、いずれも図・表は大きなもの以外は、それぞれ1点当たり1枚と換算する。

## 2. 原稿の作成・提出

### 1) 本文などは、400字詰め横書き原稿用紙を使用する。ワードプロセッサ使用の場合には、既定の書式見本ファイルを使用し、A4用紙縦置き横書きで、1行35字、1枚当たり28行、文字サイズは10.5ポイント程度とする。英文またはその他の外国語原稿は、A4縦置き用紙に、ダブルスペース（1行10～15単語、1枚当たり28行）とする。

### 2) 図表は、各図、各表ごとに別紙とする。図・表ごとにそれぞれ、図1、表1のように通し番号を付す。一つの図・表が複数の部分に分かれる場合には、a、bを付し、本文では図1-aのように言及する。図・表の原稿には、1枚ごとに番号、表題、説明文、注、出所を記し、さらに別紙にまとめる。

### 3) 本文の原稿の余白に図表の挿入位置を示す。

### 4) 書評を除くすべての和文原稿には、以下のものを順に記載する。[表題（和文）・表題（英文）・5語程度のキーワード・本文・注・文献（以上すべて和文）・300単語以内の要旨（英文）・5語程度のキーワード（英文）・800字程度の要旨（和文）]（原稿は匿名で審査されるため、個人情報には載せないこと。謝辞等は、審査終了後に記入する。）

- 5) 書評の場合は、以下のものを順に記載する。[表題（和文）・著者名（和文）・著者名（英文）・所属（和文）・所属（英文）・本文]
- 6) 英文その他の外国語原稿は、以下のものを順に記載する。[表題・5語程度のキーワード・本文・注・文献（以上すべて英文その他の外国語）・表題・800字以内の要旨・5語程度のキーワード（以上すべて和文）]（原稿は匿名で審査されるため、個人情報には載せないこと。謝辞等は、審査終了後に記入する。）
- 7) 投稿票には以下の項目を記載する。[原稿の種別・表題（和文）・表題（英文）・著者名（和文）・著者名（英文）・所属（和文）・所属（英文）・（学生の場合指導教員名）・原稿、書類のやりとりに使用する住所・メールアドレス]
- 8) 日本人などの執筆者名のローマ字表記は、Ichiro OKANO のように記す。
- 9) 英文表題の最初の1文字は大文字で始め、それ以降は冠詞、前置詞、接続詞を除き、各単語の最初の1文字を大文字で表記する。

### 3. 本文

- 1) 本文の構成は、節（1. 2. …）、小節（1) 2) …）の順の区分を原則とする。
- 2) 注は、本文中に（注1）（注2）…と記し、各論文末尾、引用文献の前にまとめる。
- 3) 単位は、℃, km, %, km<sup>2</sup> のような一般的な記号があるときは、それらの記号を用いる。
- 4) 句読点は、マル「。」とカンマ「,」を原則とする。
- 5) 算用数字や欧字などは、1字のみの場合を除き、半角とする。
- 6) 数字は1億2,345万のように記す。
- 7) 年次は西暦で表す。ただし、日本や中国などに関する歴史的記述などでは、必要に応じて1782（天明2）年のように年号を併記してもよい。「天明年間」「明治初期」などのように年号による特定の時期の表現が必要な場合には、なるべく初出の際に、対応する西暦を括弧書きで付記する。その際「1810年代」「19世紀初め」のような概略の表現でもよい。
- 8) 本文中の文献引用は、「著者姓(西暦年号)」, 「(著者名 西暦年号)」, または「(著者名 西暦年号, p(pp). ページ番号)」で示す。その際著者が1名の場合は, Thames (2005), (Thames 2005), (Thames 2005, pp. 210-211), 2名の場合は, Thames と Hudson (2005), (Thames and Hudson 2005) 等, 3名以上の場合は, Thames ら (2005), (Thames *et al.* 2005), とする。和名の場合, 多摩川・江戸川 (2005, p. 12), (多摩川, 江戸川 2005, p. 12) 等とする。
- 9) 翻訳書からの引用で、原典の出版年を記載する場合は、テムズ・ハドソン (2007 (2005), pp.

59-60), (テムズ, ハドソン 2007 (2005), pp. 59-60) とする。

- 10) 直接引用には、「」を用いる。本文などで直接言及する書名には『』（欧文はイタリック）, 論文名には「」（欧文名は“ ”）を用いる。

#### 4. 引用文献

- 1) 引用文献は著者姓の ABC 順に稿末に一括記載する。その際、下記の例示に従って、著者名・出版年・タイトル・(雑誌名)・出版社・(出版地)・開始ページと終了ページの順で記載すること。また、論文名はダブル・クォーテーション (“ ”) で囲み、著書名はイタリック(斜体字)で記載すること。

府中花子, 小金井太郎. 2007. 「共生社会へのみちすじ」『共生社会システム研究』1.1, pp. 15-29.

浅間山守, 晴見町子. 1989. 「共生の理念と持続可能な社会」吉祥寺三郎編『共生を問いなおす』東京, 西荻窪出版, pp. 25-43.

東京一郎. 1990. 『共生とはなにか』東京, 多摩湖出版.

Tamagawa, O. 1997. “About new social system of Kyosei,” *Kyosei Social Sysytem Research*, 13, pp. 432-456.

Nishikunitachi, E., K. Tachikawa, and N. Kunitachi. 1988. “Food habit and life style in Edo-Era,” in Y. Koigakubo (ed.), *Traditional Japanese Life Styles*, Tokyo, Musashikoganei Shoten, pp. 211-259.

Kokubunji, T. 2003. *Introduction to Kyosei Social Systems*, Fuchu, Noko Shuppan.

- 2) 翻訳書の原典を記載する場合は以下の例に従う。

テムズ, E., A. ハドソン. 2007. (坂東太郎訳),『欧米の河川』荒川出版. (Thames, E., and A. Hudson. 2005. *Rivers in Western Countries*, Seine Books.)

- 3) 同じ著者の文献は発表年の順に並べる。同じ発表年のものが複数ある場合には、引用順に a, b, …を付して並べる。
- 4) 筆頭著者が同じである連名著者の文献の場合には、著者名の少ない順に並べる。著者が3人以上でも全著者を列記する。